

1. 守口市不登校児童生徒の現状(令和7年度1学期末)

- ・令和7年度1学期において、5年ぶりに不登校児童生徒数が前年度より減少した。(図1)
- ・市費により校内教育支援センター支援員を配置した5校は、配置していない学校に比べて不登校数の減少率が高いという結果となった。(図2)

2. 守口市の不登校支援について

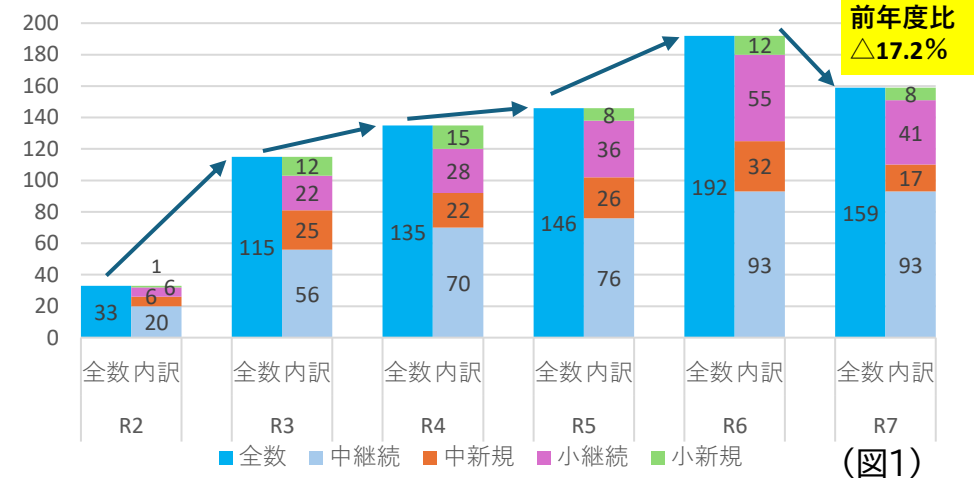
①新規不登校児童生徒の減少 対象:全ての児童生徒

- 子どもの「やってみたい」を支える特別活動や児童会・生徒会活動の推進
- すべての子どもが自分に合った学び方で探求することをめざす授業改善の推進
- チーム学年担任制等により、学習や友人との関係等、悩んでいることや困っていることを教師に相談しやすい環境づくりの推進

②学校復帰や社会的自立に向けた支援 対象:不登校状態等の児童生徒

- OSC(教育専門相談員)・SSWの派遣
 - 学生フレンドの派遣
 - 校内教育支援センター支援員の配置
 - 守口市教育支援センターでの支援
- ※人材派遣等や環境づくりにより、
①自己理解 ②共感的人間関係
③課題解決能力 ④キャリアプランニング
の視点からも支援を行う

不登校児童生徒数とその内訳 (各年度1学期末)



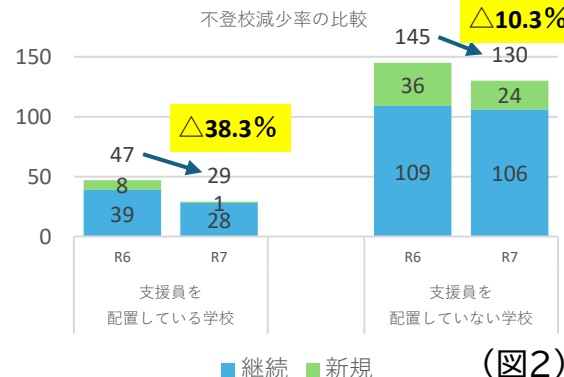
3. 令和7年度の新たな取組み

- ①校内教育支援センター支援員配置事業【府2/3、市1/3】
府の事業を活用して支援員を5校に配置(小学校4校、中学校1校)し、不登校支援を行う。
- ②「チーム(学年)担任制・教科担任制」の導入による、相談・支援体制の強化。

- ①校内教育支援センター支援員を配置した5校の、新規不登校児童生徒数の減少率と継続不登校児童数の減少率が、配置していない学校よりも高い結果となった。(各年度1学期末比較) (図2)

支援員を配置した学校	R6	R7	増減(ポイント)
不登校児童生徒数	47	29	$\Delta 38.3$
新規	8	1	$\Delta 87.5$
支援員を配置しない学校	R6	R7	増減(ポイント)
不登校児童生徒数	145	130	$\Delta 10.3$
新規	36	24	$\Delta 33.3$

支援員を配置した学校と配置していない学校における



- ②複数の教職員で指導・支援を行う体制が強化されたことで、子どもが安心して登校できる学校づくりが推進された。

【「チーム(学年)担任制・教科担任制」に対する教職員の声】

- ・担任外の教職員と一緒に学年の子どもたちに関われる。
- ・多くの教職員が子どもに関わり、日頃の様子を把握できる。
- ・情報共有や生徒指導上の案件の早期発見・早期解決ができています。
- ・事案が起きた時の聞き取り等、チームで対応ができた。
- ・日頃から子どもたちと深く関わっている教師が対応できることで、よりきめ細やかな指導につながる。

4. 今後の取組

- ①事業実施校5校の好事例について、生徒指導担当者が集まる会議やTeamsを活用し、好事例を発信する。
- ②府の補助事業を活用し、校内教育支援センター支援員の配置拡充を図り、全市立学校の不登校支援の充実を図る。
- ③「チーム(学年)担任制・教科担任制」を推進し、相談・支援体制のさらなる強化を図る。